

論点	No	意見要旨(公表版)
論点1 モーダルシフトの進展など物流の変化を見据えた東北・宮城の港湾取扱貨物の増加に向けた取組	1	東北管内の貨物を仙台塩釜港へ集約する必要がある。
	2	陸上輸送の モーダルシフト がポイント。ロジスティクス(物流)も重要。
	3	集荷に向けた努力と労働者確保が必要。船舶の大型化が進んでいる。
	4	水深が浅いので 浚渫 が必要である。
	5	船舶の 大型化 が進み、岸壁延長も短くなっている。(港湾スペースも少ない)
	6	釜山港のハブ機能を国内三大港へ集約するため、 国際フィーダー航路の必要性 が高まっている。
	7	静穏度の確保(雲雀野地区)ができるか疑問である。
	8	高速道路が整備され、 隣県(釜石・大船渡等) との競争になる。
	9	船舶の大型化が進んでおり、大水深岸壁(-14m)岸壁の早期整備が必要である。
論点2 人口減少社会における労働者不足に対応する業務効率化・生産性向上にかかるDX等の取組	1	物流業界では、長時間労働の是正に伴うドライバー不足に対して 基幹物流ルートを見直す動き 。
	2	IoTやDXなどの新しい動きへの対応は必要不可欠。
	3	若手人材の雇用継続には、AIやIoT技術による労働環境改善も含めた 港湾業務の魅力発信が大事 。
論点3 脱炭素社会の実現に向けた港湾におけるカーボンニュートラルへの取組	1	カーボンニュートラルポートの推進 が必要である。
	2	港湾の発展には 自然と共存できる環境 が重要。
論点4 東北・宮城のポテンシャルを踏まえた輸出の拡大・促進に向けた取組	1	さつまいもやキャベツなどの 農産品の輸出需要 が高まっている。
	2	香港航路を有する強みを活かし、 農林水産物・食品の輸出拠点港湾 としての位置づけが重要。
論点5 ウイズコロナ・アフターコロナに向けた観光振興・交流人口の拡大への取組	1	港の再活用 により、 地域経済の再生 に繋げたい。
	2	湾奥部(マリンゲート～北浜)の観光交流が必要。
	3	訪日客による 日本発着の国内クルーズ船需要 が高まっており、石巻港の活用を期待したい。
	4	松島 を開発が完了されたエリアとせず、他港区と連携した 観光拠点としての機能強化 に取組むべき。
	5	大型クルーザー船などの受入等についても検討願いたい。
論点6 他港を含む大規模災害の発生を見据えた防災・減災対策や、BCPIに向けた取組	1	宮城県だけではなく「 他地域の応援 」という視点での 港湾BCP (RORO船の活用等)であるべき。
	2	船舶航行安全確保のため、 ポータルラジオ を導入してほしい。
	3	船舶からの油流出等による漁業への影響を懸念。 入出港船舶の運航基準の適正運用 が不可欠。
	4	防災・減災の視点での施設整備 が重要。
	5	災害に強く、安全な港として検討願いたい。

●「第2回懇談会」でいただいた意見

論点	要旨 意見 No	意見要旨(公表版)
<p>論点1</p> <p>モーダルシフトの進展など物流の変化を見据えた東北・宮城の港湾取扱貨物の増加に向けた取組</p>	1	1970年代の計画をもとに施設が整備され、50年間で船舶の大型化が進むなど、港湾の機能を維持するためにも対応が必要である。
	2	仙台港区中野地区では、ROROやフェリー埠頭及びバルク貨物が混在しており、対策を検討していく必要がある。
	3	適正な水深が確保できないと物流・防災面で支障が生じるため、対応を要する。
	4	経済成長が見込まれる東南アジアの鉱物資源・水産資源の需要が注目されている。特にインドネシアは2050年にGDP世界第4位になる予測がある。
	5	塩釜港区の課題として、水産加工の街を踏まえ、環境にあわせた港づくりが必要である。
	6	石巻港区釜地区飼料団地の雲雀野地区への移転計画について、30年以上経過しており、整理・協議が必要ではないか。
	7	コンテナ貨物の長期需要が期待される中で、高砂コンテナターミナルの設置ヤード拡張やトランスファークレーンの整備方針は明示すべき。
	8	ソフト面では、なぜ仙台塩釜港が良いのかマーケティングが必須。ターゲットとする品目、荷主、荷物のポジショニング、在庫の持ち方などの分析が大事である。
	9	内航フィーダーの重要性も勿論であるが、利用者からは外航ダイレクト航路のニーズも底堅い。
	10	各港区の機能分担について、コンテナとユニットロードは仙台、バルクは石巻と塩釜の仕分けであるが、今後のBCPやモーダルシフトなどの変化によっては、一部の機能分担の見直し検討があっても良いと考える。特にRORO船は役割分担が必要。
<p>論点4</p> <p>東北・宮城のポテンシャルを踏まえた輸出の拡大・促進に向けた取組</p>	1	コンテナの農産品、食品の輸出が今後伸びると見込まれるため、ニーズに合わせたポートセールスと、冷蔵倉庫の整備などコールドチェーン構築が大事になる。
	2	北米ダイレクト航路の再開は非常に重要である。米中のデカップリングや日米の経済安全保障が関連し、最先端品(半導体、半導体機械、EV 関係)などが中国へ輸出しづらくなると、アメリカへの輸出が増えてくる可能性が考えられる。
<p>論点5</p> <p>ウィズコロナ・アフターコロナに向けた観光振興・交流人口の拡大への取組</p>	1	外航クルーズ船のニーズは復活し、予約数はコロナ前を上回る状況である。
	2	塩釜港区の港奥部活性化策を検討しており、考慮いただきたい。
<p>論点6</p> <p>他港を含む大規模災害の発生を見据えた防災・減災対策や、BCPIに向けた取組</p>	1	防災面から、中野・高松では複数種類の貨物・船舶が混在しているため、RORO船対策としてバース整備を推進してほしい。
	2	雲雀野地区の水深12m耐震岸壁を早急に進めてほしい。
	3	松島は観光港であり中小型の船舶が相手となる。松島湾の浚渫を定期的に行ってもらってはいるが、航路上に浅いところがあり、優先度を見直してほしい。
	4	水深確保のための浚渫は関係者共通の問題であり、自社負担で行っている。効率的で安全な物流、船型の大型化への対応に向けて計画的な浚渫を進めてほしい。
	5	養殖いかだへの船舶衝突など、漁業被害が5年連続で発生しており、受け入れ体制をしっかりとしてほしい。

●「第3回懇談会」でいただいた意見

論点	要旨意見 No	意見要旨(公表版)
論点1 モーダルシフトの進展など物流の変化を見据えた東北・宮城の港湾取扱貨物の増加に向けた取組	1	石巻港区では一部のオーバースペック船が特別許可のもと着岸している実態がある。船舶の大型化により、雲雀野心頭の混雑が懸念される。
論点5 ウィズコロナ・アフターコロナに向けた観光振興・交流人口の拡大への取組	1	「クルーズ」は港湾人流の要となる要素。増加策を議論する上では欠かせない。
	2	東北の観光面で夏場のクルーズはインパクトがある。沿岸部における宿泊場所の問題についても宿の心配がなくなる点を強く生かしていけると良い。
	3	沿岸部においてクルーズは大きな武器になる。事前にクルーズ客層を把握した上で、特性に合わせた販売戦略を立てることが必要。
	4	クルーズ船の誘致には、地元での観光を促すような仕組みづくりが重要。
	5	東日本クルーズ全体の中で、宮城ならではのツール、他港・他地域との差別化を図る。
	6	船型やカテゴリーで異なるクルーズ消費額の特性や価格帯、ターゲット客層を踏まえたクルーズ船の誘致戦略を検討すべき。
	7	プレジャーボートに対しては、港湾と漁港の双方が連携・タイアップした幅広い取組みが必要。
	8	「ウォーターフロント」と何かの掛け算による新しい魅力づくりに取り組むことが重要。単なるウォーターフロントではなく目的地化していく発想が大事。
	9	単に「食」を楽しませるだけでなく、料理人の人材育成に繋がるようなホテル・旅館と連携した仕掛けが面白い。
	10	自治体、宮城県、東北全体の広い枠組みで仙台塩釜港のPRが効果的。
	11	地域インバーターを取り込みながら「目的地づくり」の検討をしっかりと進めていくことが大事。
	12	港奥部における親水空間、憩いや集いの空間づくりにより地元市民に受け入れる集客力のある港にしていきたい。
	13	吉田・花洲浜地区は、県内有数のヨットの停泊地である小浜港の活用を含め、マリナクティビティの拠点として今後さらなる賑わい創出を図っていきたい。
	14	東側の商港エリアは、小型クルーズ船、海事観光、海洋レジャー拠点としての利用促進など物流以外の機能を入れ込むことを長期的に考えていく必要がある。
	15	港奥部は、まちとの近接を活かして歴史・文化を経済効果に結び付けることが重要。新しい視点・コンテンツによる利活用検討が必要。
	16	塩釜の「食」は大きなコンテンツ。食育やシェフなどのコンテンツを港の賑わいに繋げていくことを考えるべき。
	17	観光地で勝負するのではなく、新たな目的地を創り出し、そこで滞在時間を増えてお金が落ちるような仕掛けが必要。
	18	松島町の観光振興を検討する中で、インバウンドへの取り組みは重要な課題。
	19	他港区から松島へクルーズ客を移送するための二次交通網の確保など、おもてなしの強化が必要。
	20	松島港区の湾内遊覧船桟橋に雨・日除けの屋根等の施設整備を望む。
	21	松島単独ではなく、塩釜や東松島の周辺地域と連携して海を生かすことを考えるべき。
	22	石巻の景観的・観光的な要素は、クルーズ客の新たなツアーコンテンツとなる可能性が十分に考えられる。
	23	石巻港区のプレジャーボート収容計画について、現計画地の水面貯木場から大曲地区定川河口部へ移動するよう要望している。
	24	東松島市には海に近い観光資源が多くある。海辺を利活用しながら観光振興に繋げていけると良い。
	25	東松島市内へクルーズ客を呼び込むための周遊ルートづくりが必要。
	26	クルーズ船を誘致することだけでなく、観光のサプライチェーンづくりが大事。
	27	石巻の飼料工場など地元産業を守る視点をもって、観光とのバランスが取れた港湾マネジメントが必要。
	28	高級志向だけでなく若者をターゲットとした観光づくり、ヨットの配置など景色・景観を含めたトータルコーディネートしていく考え方も必要。
	29	市民と港が乖離しているなかで、港と観光を結び付けるためには、産業観光(工場見学)の切り口から交流人口拡大に向けた官民一体となった取組みが必要。
	30	仙台港区は人を呼び寄せる魅力ある施設・スポットが多数備わっている。官民連携のもとさらに魅力を高めていくことが重要。
31	仙台港区の観光施設は海の魅力との結び付きが弱い。連携する工夫や仕掛けが必要。	
論点6 他港を含む大規模災害の発生を見据えた防災・減災対策や、BCPに向けた取組	1	安全性の確保の観点から、松島湾内のマリナレジャーと遊覧船航路とのエリア分けやルール化が必要。
	2	松島湾内の安全確保に向けた水域利用者との調整は重要な取組みとして今後とも継続していく。

●「第4回懇談会」でいただいた意見

論点	要旨意見 No	意見要旨(公表版)
<p>論点1</p> <p>モーダルシフトの進展など物流の変化を見据えた東北・宮城の港湾取扱貨物の増加に向けた取組</p>	1	2024年問題に伴う物流基地の再編成の動きがある中で、仙台の拠点性をどのように発揮していくか、ドライバーの滞在時間の工夫など労働環境面からも利用し易い物流拠点づくりが求められる。
	2	仙台塩釜港を取り巻く交通インフラ環境には、物流に関連するインフラとして鉄道や空港の情報も追加すべき。
	3	将来想定される社会変化の項目について、自動車の電動化など、今後の国内産業構造の変化による影響についても追加すべき。
<p>論点2</p> <p>人口減少社会における労働者不足に対応する業務効率化・生産性向上にかかわるDX等の取組</p>	1	港湾労働者が将来にわたって減少し、労働者不足が深刻化する中で、DX化や自動化、港湾施設の強化などによる業務の効率化をはかることは非常に大きな課題であり、より具体的な検討を行うことによる生産性向上が求められる。
<p>論点3</p> <p>脱炭素社会の実現に向けた港湾におけるカーボンニュートラルへの取組</p>	1	CNP形成に向けた動きとして、物流の2024年問題に関連した脱炭素化の取組みを加えるべき。例えば、東北の農水産品を仙台塩釜港経由で京浜港から海外へ輸出していく海運利用の取組みは、脱炭素に関連した有意義な活動事例である。
	2	水素・アンモニア等の次世代エネルギーの受入貯蔵施設を整備するにあたっては、供給先である需要家がどこにいるか、何をどのように使っていくのか需要に関する把握・検討が大事である。
<p>論点4</p> <p>東北・宮城のポテンシャルを踏まえた輸出の拡大・促進に向けた取組</p>	1	2024年問題に関連した農産品輸出の取組みとして、仙台塩釜港経由での農産品輸出の試みが高い評価を得ていることから、今後も仙台塩釜港の拠点性を活かした関係者間の連携した取組みが必要である。
<p>論点5</p> <p>ウィズコロナ・アフターコロナに向けた観光振興・交流人口の拡大への取組</p>	1	観光振興や人流増加への取組みは、港湾の背後地だけではなく、行政や民間の観光業、観光地域づくり法人(DMO)などとの幅広い関係機関との連携が必要である。
	2	野蒜築港や蒲生、貞山運河など港湾整備の歴史についても、観光・交流促進のメニューに加えるべき。
	3	「観光・交流」の方向性で示す「目的地化」に向けた取組みは、戦略性をもって進めてほしい。東北の観光は祭りや紅葉でイベント化している中で、東北・宮城の“暮らし”や“人”を見せていく工夫や、石巻の世界有数の水産加工技術など、日本の精神性や伝統を伝える仕組みを、イベントとの端境期に組み込んでいくことが必要。
	4	「観光・交流」の方向性に関して、野蒜築港や貞山運河、東名運河など港湾の歴史発掘・伝承などのインフラツーリズムの視点を加え、みなとオアシスなどの既存施設の活用策についても考えてほしい。
	5	宮城県はクルーズ船の誘致活動や観光資源の魅力が東北6県の中でも決して強くはない中で、誘致活動は2～3年かけてじっくり計画的に進めていくべき。
	6	今増えている小型のラグジュアリー船に対しては、「食」などの付加価値の高い特別感の出る商品が求められている。観光に縁のなかった「刀」を見せるなど、知恵を出し合い、新しいクルーズ船対応のオプションルツアーを開発・検討すべき。
<p>論点6</p> <p>他港を含む大規模災害の発生を見据えた防災・減災対策や、BCPIに向けた取組</p>	1	長寿化対策として、「施設の再編・最適化」をどのように取り組むかが大きな問題である。全ての施設を維持・修繕するわけではなく、そのふるい分けが必要。
	2	取扱機能の効率化・拡充や港湾施設の維持については、岸壁等の陸側施設とあわせて水域施設の機能確保も重要である。
	3	横浜港では既に南本牧ふ頭や新本牧ふ頭では高機能な耐震バースが整備され、震災を踏まえた港づくりが進んでおり、京浜港に就航する北米航路の一時的な代替を担う災害対応として水深16m岸壁1バースは必要と考える。
	4	災害時の港湾運用の視点で、生産活動用の通常貨物と緊急物資の取り合いをどうするか、ふ頭利用や優先順位などは、既存利用者との事前調整が必要である。
	5	東北広域港湾BCPの中で他県企業分をどのように連携して扱うことにしているか、通常貨物の代替対応を改めてチェックする必要がある。